



うえまつ
植松
(至誠)

けんいち
健一



富士宮市の教育について

問 不登校児童生徒が危機的に増加していることについて、どう考えるか。

教育長 コロナ禍となり実態が見えづらくなった時に対応が難しかったことが大きい。学校で人と人との関わり、つながりを強くするような活動はほとんど封じられ、子どもたちの学校に対する価値観が変わったと感じる。人と人とのつながりを元に戻そうということを今やっている。社会の構造的な変化もあり、これから不登校の子どもがゼロになっていくということは考えにくい。「誰一人取り残さない」学びの保障は市、県、国の責任であると思う。国は、そのところをどのようにケアしていくか学習指導要領にどのように盛り込むか検討している。今年の秋ころには、具体的な説明を各市町にする

予定になっている。

問 中学校部活動の地域移行の過程で中体連がなくなると子どもたちのスポーツに接する機会の減少や喪失につながるのではないか。

教育長 そのような可能性はかなりある。中体連という大会はなくなっても、何か企業の協力を得てそれに代わるような大会を富士宮市として用意でき、同じように県でも全国でも用意でき、子どもたちが一生懸命練習した成果を確認することができるような方向で部活動の在り方も考えていきたい。

問 富士宮市の義務教育の特色は。

教育長 本市では「こども一人ひとりかけがえのない存在であること」を教育活動の根底に置き、「富士山を心に夢を持って生きるこども」の育成に取り組んでいる。自ら課題を見出し自分なりの考えをもって多様な仲間と協働しながら最適解を見出す学びはこれからの時代を生き抜くには欠くことができない。こうした「生きる力」の育成に真摯に取り組んでいる。



なかがめ
仲亀
(無会派)

きょうへい
恭平



大声で恫喝、土下座を要求。社会問題となっている「カスタマーハラスメント」防止へ！カスハラに対する富士宮市の取組について。

問 「カスハラ対策マニュアル」策定の考えは。

部長 今年度から職員向け対策マニュアルの作成に着手する。



問 対応の在り方について。

部長 キーマンになるのは所属長と考える。

問 「カスハラ」についての調査。

部長 不快な思いや怖い思いをしたことがある職員が約 22%。

「名前を SNS で検索された」

「自宅住所を調べられた」

「お前の家族がどうなっても知らないぞと恫喝された」

問 カスハラ行為「長時間の拘束」。

部長 時間的な部分は慎重にやる。

副市長 「しっかり説明」「優しい対応」が前提。

問 カスハラ行為「暴言」。

部長 録音機能付き電話、ICレコーダーで対応。

問 チェック体制について。

部長 所属長への「報連相」を徹底する。

**もう忘れない！「ごみの日」を教えてください
る便利なサービスを提案**

問 富士宮市 LINE メッセージを活用し、

「明日はプラスチックの日です」

「今日は缶の日です」

等お知らせするサービスを実施してはいかがか。

部長 お知らせするという方向で進めていく。